

日本古印譜の研究(序説)

藤貞幹以前について

A Study on Books of Old Seals of Japan

小倉慈司

はしがき

- ① 古印研究の萌芽
- ② 松崎祐之作成印譜
- ③ 伝藤原惺窩所輯, 成慶増補印譜
- ④ 高芙蓉古印摸本

小 括

[論文要旨]

本稿は、日本古代の史料に押捺された印影を主に収録した摸古印譜(日本古印譜)について、その系譜を明らかにすることを目的とした調査の中間報告である。今回は特に日本古印の研究の基礎を築きその後の日本古印譜作成に大きな影響を与えた藤貞幹が登場する以前の時期に焦点をあてて調査を行なった。

近世にいたり古印への関心が高まった背景には、古文書への関心の高まり、篆刻界における復古体の流行、さらには朝廷内における朝儀復興の動きといったことが考えられよう。現在確認される最古の日本古印譜は、松崎祐之作成の『印譜』であるが、この存在はあまり知られることはなかったらしく、以後の日本古印譜にも影響を与えた形跡を見出せない。次に挙げられるのが、藤原惺窩が輯し成慶が増補したと伝えられる印譜であるが、現在、管見の限りではあるものの、成慶が作成した印譜の転写本以外にはこの印譜を発見することはできなかった。伝惺窩作成印譜と成慶作成印譜とは元来別のものであったと考えられるが、成慶作成印譜が転写を重ねるうちに伝惺窩作成印譜と混同されるようになったのではなかろうか。ちなみに伝惺窩作成印譜は実際には惺窩作ではなく、後に仮託されたものと想像される。篆刻家高芙蓉が作成したとされる古印譜もかつて存在したらしいが、今に伝わらず、後世の印譜に引用された印影によって、その内容をうかがうことができるのみである。それによれば、芙蓉作成印譜の中には明らかに偽印と見做される印影も含まれていた。藤貞幹が日本古印譜を作成する以前には以上のような印譜が存在しており、それらが貞幹の印譜研究に与えた影響は大きいと考えられる。